

平成26年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
1 学校運営の 充実	(全体レベル) 1) 教職員研修の充実を図ることで教職員の 資質向上に努め、学校全体の教育力を向上 させる。 2) 教育環境を整備し、地域や社会の要請を 視野に入れた特色ある学校づくりを推進す る。 3) 広報活動を充実させ、地域に根ざした開 かれた学校づくりを推進する。 (下位組織レベル) ①各種教職員研修の充実 ①協働精神に満ちた教職員の組織づくり ①教職員間の情報活用能力と情報モラルの 育成 ②特色ある学校づくりの推進 ②学校開放・公開、地域貢献ボランティア 活動 ③マスメディアを活用した広報やホームペ ージの充実、学校行事の公開等、積極的 な情報発信	評価指標 ①-1 各種教職員研修の実施 各学期1回以上 ①-2 職員共有サーバーの利用、資産持ち出 し管理シートの活用 100% ①-3 教員間の協力度を計るアンケートを実 施する。 90%以上 ①-4 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに 教職員全体での意思統一 ウィルスチェック 年6回以上 ②-1 地域に向けた開放講座の実施 年間5回以上 ②-2 地域貢献並びに地域の保全活動の実施 年間6回以上 ③-1 学校ホームページの更新並びにアクセス数 年間100回・年間70,000件 ③-2 中学生体験入学の満足度 70%以上 (アンケート実施)	評価指標の達成度 ①-1 職員研修 6回 ①-2 管理シート活用 15件 ①-3 共通理解、風通しの良さ 88.2% ①-4 ウィルスチェック 4回 ②-1 3講座実施、2講座希望者なし ②-2 地域貢献活動等 15回 ③-1 学校ホームページ更新 262回 アクセス数(4~1月) 48,891件 ③-2 生徒満足度 96.7% 保護者・職員満足度 100% 自ら希望して参加 84.3%	評価 ① B ② C ③ B	総合評価 B (所見) ・職員間の意思疎通がス ムーズに行われ、様々 なことへの対応が適切 に行われてきた。 ・各種職員研修は計画的 に実施され、教育実践 に生かされている。 ・ボランティア等への参 加者はまだまだ少ない が、参加回数は増加し ており、地元吉野川市 への貢献度は高くなっ てきた。 ・スクールカフェ営業、 開放講座等の取り組み をはじめ、まだまだ地 域に認知度が低いため 今後とも特色ある学校 づくりを推進し、地域 にアピールしてしてい く必要がある。 ・体験入学の生徒、保護 者の満足度は高く、今 後内容等を充実してい く。	・吉野川高校への満足度 が生徒・保護者ともに 高い点は非常に評価で きる。また生徒より保 護者の満足度が20%も 高いという点も興味深 い。この差がどうして できたのか、その原因 となる要素を一つ一つ 検討し、改善策を見つ けていけば、より魅力 的な学校になると思わ れる。数値からみると、 学校の指導に不満のあ る保護者が少ないよう だが、この結果に満足 することなく教育実践 に努めていただきたい。 ・農産物販売等に利用す るSNSでは記名式の文 章やPOPを出すのも面 白い仕掛けになるかも しれない。客の購買行 動には商品を応援しよ うという動機も重要で ある。個人情報保護の 流れに逆行する手法で はあるが、敢えて生徒 の個人名で書いた文章 などを掲載することで 共感を得、顧客を増や すマーケティングの方 法も試してみてもどう か。 ・スクールカフェは学校 のホームページや校門 前の看板等で案内して いるが、まだまだ広報 が不十分である。 ・外部からの来客者が 増加すると、緊張感が 生まれてよい刺激にな り生徒の自信につなが ると考えられる ・スクールカフェの目的 は、起業家の育成、地 域貢献、地域の担い手 であることの認識、商 業科で学ぶ接客・マナ ーの実践の場である。
		活動計画 ①-1 コンプライアンス、特別支援教育など の研修会を実施する。 ①-2 職員共有サーバーを活用し、校務の効 率化を図る。 ①-3 「報告・連絡・相談」の徹底を図り、 教職員間の共通理解を深める。 ①-4 情報セキュリティポリシーを遵守し、情報漏洩防 止を図る。 ②-1 パソコン講座等を実施する。 ②-2 部活動や専門教育を通してボランティ ア活動を推進する。 ③-1 保護者や地域に、本校の特色や学習活 動などを積極的かつリアルタイムな情 報を提供できるよう、ホームページの更新 や充実を図る。 ③-2 体験入学において、本校の特色ある学 習内容に関する講座を開設する。	活動計画の実施状況 ①-1 コンプライアンス研修、教育相談ケー ス会議、人権教育講演会、AED講習会等 各課の資料作成等に利用し、時間短縮等 校務の効率化が図れた。 ①-2 職員の組織的対応により生徒の問題行動 や保護者・地域への対応など適切に対応 できた。 ①-3 県教委情報戦略担当による情報資産等の 管理に関する職員研修を実施した。 ②-1 押し花アート講座(6名参加) 地域の食材を生かした料理教室(11名) パン作り(7名参加) ②-2 押し花アート講習会2回(延15名参加) 禁煙啓発パレード(5名参加) 野菊の里施設ボランティア5回(延19名) 野鳥観察2回(延4名参加) ごくろうえきものがたり(4名参加) 吉野川市市政10周年記念イベント(3名) 子供ゆめまつり(7名参加) ユリの花祭り(3名参加)等 ③-1 ホームページは各行事の状況や保護者等 に伝えなければならないことをその都度 リアルタイムで発信している。 ③-2 ・フラワーアレンジメント(13名参加) ・藍染め(14名参加) ・食品製造(19名参加) ・簿記入門・PCによるPOP広告作成(50名 参加) ・接客実習(25名参加) (中学生121名、保護者15名参加)			

【備考】評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成

平成26年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
2 確かな学力の育成	(全体レベル) 1) 基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。 2) 個性の伸張を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストを育成する。 (下位組織レベル) ①基礎学力の向上に向けた取り組み ①学校関係者評価アンケートの実施 ①読書習慣の定着 ①図書館の魅力の向上 ②各種資格取得の奨励と補習体制の構築による合格率の向上 ②体験的・実践的な農業・商業教育の推進	評価指標 ①-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 各学期1回以上 ①-2 学校評価アンケート ・生徒授業満足度 80%以上 ・職員授業充実度 80%以上 ・保護者学力向上・学習内容充実度 70%以上 ・基礎学力に向けた取り組み満足度 80%以上 ①-3 校内読書会の実施回数と参加者数 6回 120人 ①-4 貸出冊数 2,500冊 ①-5 読書感想文の応募数 260人 ①-6 図書館だよりの発行回数 10回 ①-7 図書館蔵書の満足度(アンケート)90% ①-8 図書館入館者数 5,000人 ①-9 朝読週間の実施回数 年8回 ①-10 朝読週間満足度(アンケート)70%以上 ② [農業] ・農業技術検定3級受験率 受験率:95.0%以上 全体合格率:50.0%以上 [商業] ・全商3級1種目以上 取得者100% ・全商2級1種目以上 取得者70% ・全商1級1種目以上 取得者30名 ・全商1級2種目以上 取得者10名 ・全商1級3種目以上 取得者16名 ・日商簿記2級合格 1名 ・ITパスポート合格 1名	評価指標の達成度 ①-1 学力向上検討委員会 2回 教科会 各教科平均3.5回 ①-2 ・生徒授業満足度(1学期→2学期) 75.4%→75.0% ・職員授業充実度 90.2% ・保護者学力向上満足度 75.3% ・保護者学習内容充実度 75.0% ・生徒基礎学力満足度(1学期→2学期) 65.5%→64.9% ・職員基礎学力満足度 94.1% ①-3 校内読書会 6回 144名参加 ①-4 貸出冊数 3,322冊(1人7.7冊) ①-5 応募数 286人 ①-6 発行回数 10回 ①-7 満足度 90% ①-8 入館者数 5,238人 ①-9 朝読週間 10回 ①-10 満足度(1学期→2学期) 69.9%→76.1% ② [農業] ・農業技術検定3級 受験率95.9% 合格率93.6% ・フラワー装飾検定3級 受験率24.0% 合格率50.0% ・園芸装飾検定3級 受験率56.0% 合格率57.1% [商業] ・全商3級1種目以上(1学期→最終) 52.6%→76.5% ・全商2級1種目以上(1学期→最終) 19.8%→36.5% ・全商1級1種目以上 取得者9名 ・全商1級2種目以上 取得者3名 ・全商1級3種目以上 取得者2名 ・日商簿記2級合格 未受験 ・ITパスポート合格 未受験	評定 B 総合評価 B (所見) ・学力向上への取り組みで教職員と生徒・保護者の満足度に乖離があるため、学力の定着が実感できるような授業改善等の対策が必要である。 ・ほとんどの生徒が自分で朝読の本を準備でき前向きな姿勢が見られる。今後朝読の意義をしっかりと理解させ、朝読の習慣を本校の伝統として定着させていきたい。 ・商業検定取得者の割合はまだ低いが、昨年度より受験者数、取得者の割合は上がっている。農業関係については昨年度に比べ合格率が格段に上がった。 ・「スーパーオンラインハイスクール事業」の実施により、『スクールカフェ吉野川』や校内における農産物販売を地域に浸透させることができた。 ・吉野川高校へ入学して良かったと思う生徒は74.6%(保護者94.9%)で学校生活の満足度はまだまだ低い状況にある。	・各種資格取得の奨励により、1年生の早い時期から検定に挑戦させることは有効な取り組みである。一つの検定に合格すると自信もつき、自信がつくとさらに他の検定にも関心を持つというような相乗効果で、学習全般に対する気持ちが変わる。是非この流れで奨励してほしい。 ・基礎学力満足度について職員と生徒・保護者の間に意識の差があるが、質問の文章が違っていると答える側の受け取り方に差ができてしまうので、アンケートの文面についての検討が必要である。 ・アンケートの公開がHPのみなので、生徒が結果を知らず、学力が向上していることを認識していないようだ。客観的に向上していることがわかれば自信ができる。プラスのデータはHR等で生徒に周知したらどうか。 ・アンケート結果を全員で確認することは「みんなで向上していこう」という意識につながる。 ・反復して学習することが大切で、そのことで実力がついてくる。 ・読書の感想を伝え合うことで、本を読む楽しさが深みを増す。読書は心の教育にもなるので、更に取り組んでほしい。 ・学校が達成する目標や姿勢を持っていけば生徒も気づき、取り組むようになる。	・生徒たちに何のために勉強するのか早い段階で気づかせ、基礎的な力を身につけていくことにより応用へと幅を広げていく。また、資格取得に向けて、計画的な補習を実施する。 ・図書館利用者を増やすためにも図書委員だけでなく、全体で感想を言い合える場を設けたり、本のPOP作りに取り組む。図書館だよりを生徒の感想文などを掲載する。 ・課題テストに加え、外部の基礎学力診断テストを導入し、各生徒の学力を分析する。 ・スーパーオンラインハイスクール事業では、活動を通じて生徒の向上心の発揚が見られた。しかしながら、生徒活動発表会では、健闘はしたものの最優秀賞を受賞することは出来なかった。地域貢献を推進する活動を中核に据えた事業計画を立案し、次年度の審査に臨みたい。
		活動計画 ①-1 学力向上委員会において取り組みの検証を行う。 ①-2 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケートを実施する。 ①-3 希望者を募り、校内読書会を実施する。 ①-5 読書感想文コンクールに応募する。 ①-7 購入希望図書アンケートを実施する。 ①-9 毎月1週間朝読週間を実施する。 ② 資格試験の実施に関して、生徒への周知を徹底する。また、取得率向上に向けて、補習体制を強化する。 ③ 実施計画書に基づいて実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 学力向上検討委員会において課題テスト等についての改善策を話し合った。 ①-2 全校生徒並びに保護者・教職員にアンケート調査を実施し、状況把握に努めた。 ①-3 図書委員を中心として実施した。 ①-5 青少年読書感想文全国コンクールに応募した。(毎日新聞主催) ①-10 毎月実施し、95%の生徒が真面目に取り組めたと回答し、満足度も高い。 ② 商業科は各検定前に1～2週間個別に補習を実施した。特に、農業科は9月より補習を強化した。 ③ 『スクールカフェ吉野川』『アグリ吉野川』の営業を15回実施することができた。また、ICT化による農場生産物の情報発信、東京における販売及び地域食・伝統食の継承活動で地域貢献できた。	評定 A	・アンケート結果を全員で確認することは「みんなで向上していこう」という意識につながる。 ・反復して学習することが大切で、そのことで実力がついてくる。 ・読書の感想を伝え合うことで、本を読む楽しさが深みを増す。読書は心の教育にもなるので、更に取り組んでほしい。 ・学校が達成する目標や姿勢を持っていれば生徒も気づき、取り組むようになる。	・スーパーオンラインハイスクール事業では、活動を通じて生徒の向上心の発揚が見られた。しかしながら、生徒活動発表会では、健闘はしたものの最優秀賞を受賞することは出来なかった。地域貢献を推進する活動を中核に据えた事業計画を立案し、次年度の審査に臨みたい。
		備考 評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満～70%以上達成 D:70%未満～60%以上達成 E:60%未満達成				

平成26年度学校評価総括評価表

自 己 評 価			学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見				
3 生徒指導の徹底	(全体レベル) 1) 基本的な生活習慣を確立を図り、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。 2) 教職員の共通理解を図り、保護者、地域社会との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 3) 教職員間での情報の共有化を推進する 4) 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・早期対応に努める。 (下位組織レベル) ①-1 日常的な生活指導による基本的な生活習慣の確立 ①-2 集会時や職員室・進路指導室入室時の服装の整備の徹底 ② 保護者、地域社会、関係機関との連携を密にした指導の実践 ③ 教職員間での情報の共有化並びに連携強化 ④ 常時指導と組織的な対応を継続	評価指標 ①-1 校門での登校指導実施率 100% ①-2 校外巡視の実施 週1回以上 ①-3 頭髪服装一斉指導時における違反率 各学年5%以下 ①-4 ネクタイ・リボン・第一ボタンの整備の徹底 100% ①-5 道徳教育の充実 LHR年3回実施 ②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時 ②-2 保護者・地域住民のからの苦情や相談の処理を徹底 随時 ③ 学年別の情報交換会実施 毎学期1回 ④ いじめのアンケート実施 年2回 活動計画 ①-1 毎朝校門で頭髪・服装指導を中心とした登校指導を実施する。 ①-2 生徒指導課を中心とし、毎月1回、学校安全の日を実施するとともに登下校時に鴨島駅周辺での立哨指導も週1回は行う。 ①-3 生徒指導課を中心とし、毎月1回、全校集会時に頭髪服装検査を行い、事後指導・継続指導を徹底する。 ①-4 職員室・進路室入室や集会等において着用を徹底する。 ①-5 各学年ごとに指導計画を立て統一した指導を行う。 ②-1 職員朝礼において共通理解を図る。 ②-2 保護者や地域住民・補導センター等の苦情や相談に対して迅速かつ誠実に対応する。 ③ 年度初めには学年別に情報交換会を行い生徒の家庭環境や学校生活に関する状況を共有する。 ④ アンケートの結果により面談等を実施し、早期対応に努める。	評価指標の達成度 ①-1 校門での登校指導実施率 100% ①-2 校外巡視の実施 90% ①-3 頭髪服装一斉指導時における違反率 1年4.37%→4.17% 2年5.55%→5.47% 3年5.51%→7.61% (1学期→2学期) ①-4 ネクタイ・リボン・第一ボタンの整備の徹底 100% ①-5 道徳教育の充実 LHR3回実施 ②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時 ②-2 保護者・地域住民のからの苦情や相談の処理を徹底 随時 ③ 学年別の情報交換会実施 2回 ④ いじめのアンケート実施 2回 活動計画の実施状況 ①-1 毎朝校門で5名程度の職員による登校指導を実施し、遅刻指導について強化した。 ①-2 学校安全の日毎月1回実施 鴨島駅周辺での立哨指導23回実施 夏季休業日中巡視(阿波踊り等)9回実施 冬季休業日中巡視 8回実施 ①-3 頭髪服装指導徹底率(アンケートによる) 教職員 80.4% 生徒 88.3%→88.6% 保護者 89.7% ①-4 職員室・進路室入室や集会等において着用を徹底した。 ①-5 各学年ごとに指導計画を立て、各学年で指導内容等について事前検討会を実施し、統一した指導を行った。 ②-1 職員朝礼において共通理解が必要な事項は随時連絡を密にし、意志の疎通が図れた。 ②-2 苦情や相談が毎月5件程度あったが、迅速かつ誠実に対応できた。 ③ 年度初めには学年別に情報交換会を行い生徒の家庭環境や学校生活に関する状況等の情報を共有できた。 ④ アンケートの結果により面談等を実施し、早期対応に努め、大事には至っていない。最近いじめられたことがある(アンケート調査)1年生(3名) 2年生(1名) 3年生(3名)	評価 ①-1 B ①-2 B ①-3 B ①-4 B ①-5 B ②-1 B ②-2 B ③ B ④ A	総合評価 (所見) ・学校評価のアンケート結果を分析してみると、挨拶や服装・頭髪に関しては生徒はおおむね学校の指導に沿った学校生活を送ることができており、保護者の協力も得られている。 ・校外での生徒の態度はまだまだ指導が徹底できておらず、交通マナー違反や喫煙等の苦情や通報が無くなっていない。 ・吉野川高校となり3年目となるが、生徒指導上の問題は年を追うごとに減少し、学校も落ち着いてきたように感じられる。 ・今後は教職員の組織力をさらに向上させ、周辺地域や近隣校からも信頼され、地域に愛される「吉野川高校」を目指していきたい。	・いじめのアンケートを年2回行い、問題のある回答をした生徒については速やかに確認をする等、いじめに対する学校の対応は良好であると思われる。しかし中には、深刻で解決の難しい事例も含まれている可能性があるため、生徒が先生に相談できる関係を普段から築いてほしい。 ・頭髪服装指導が徹底されているかどうかについて、職員と生徒・保護者の意識に10%の開きがある点に興味深い。生徒や保護者は、学校の指導は厳しいと感じているが、学校側としてはまだまだ徹底されていないとの認識なのである。就職を目前にした生徒が多い専門高校においては服装指導が必須の課題である。生徒には繰り返し、身だしなみを整えることの大切さを伝え、学校側の期待するレベルまで近づけていきたい。 ・基本的な生活習慣が徐々に確立されてきており、学校生活に前向きに取り組めるようになってきている。	・基礎学力向上や進路指導にもつながるので、早い段階で、なぜ頭髪服装や清掃をきちんとし、生活習慣を確立しなければならないかを理解させる。 ・2学期に遅刻率が上がっているため実効性のある対策を考えていかなければならない。 ・通学マナー向上のために、登下校の様子をビデオに撮影し、実際の様子を生徒たちに見せることで、交通安全について理解させ、マナー向上に努める。

【備考】評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成

平成26年度学校評価総括評価表

自 己 評 価				学校関係者評価	学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策	
			評価指標の達成度	評定 総合評価			
4 人権教育並びに特別支援教育の推進	(全体レベル) 1) 普遍的・個別的な観点から学校教育全体をとおしての人権教育の推進する。 2) 自他を大切にす心や態度を育成する。 3) 特別支援教育を推進し、個々に応じた支援を行う。 (下位組織レベル) ①人権学習ホームルーム活動の充実 ②人権啓発活動の充実 ③人権教育教職員研修の充実 ④教育相談体制の充実 ⑤特別支援の計画策定及び関係機関との連携	評価指標 ①-1 人権学習HR実施回数 年5回 ①-2 人権学習HR活動生徒満足度 70%以上 ②-1 人権映画会の実施 年1回 ②-2 人権映画会の生徒の満足度 80%以上 ②-3 1) 人権交流事業への参加 20名以上 2) 文化祭展示用ポスター・標語提出 3) 人権の日の啓発活動 年9回 ②-4 人権教育教職員研修の実施回数 年3回 ②-5 “あわ”人権学習ハンドブックの活用 年5回以上 ③-1 教育相談教職員研修の実施回数年1回 行うがそれ以降は必要に応じて適宜 ③-2 特別支援教育研修会実施回数年 3回 ④-1 こころと体の健康カードの活用 年2回 ④-2 カウンセリング室の開放 週1回 ④-3 二者面談・三者面談に同席 適宜 ⑤-1 就労体験・職場見学の実施 のべ5名以上 ⑤-2 特別な支援を必要としていた卒業生の継続支援を行う。 のべ7社以上 活動計画 ①-1 人権教育主事と学年主任・担任との連携を図る。 ②-1 人権映画鑑賞によって人権意識を高める。 ②-4 人権問題の実態から学ぶ研修を実施する。 ③-2 特別支援教育の理解を進めるため、研修会を実施する。 ④-1 問題を抱える生徒に対しての相談活動を推進する。 ④-2 カウンセリング室を利用することにより生徒個々の状態を把握し、生徒が相談しやすい環境作りに努める。 ④-3 みなと高等学園他、関係機関との連携・相談を図る。 ⑤-1 学習支援員・教科担任と連携を深め、特別な支援を必要とする生徒の個別の指導計画を作成する。 ⑤-2 職場訪問をし、継続支援を行う。	評価指標の達成度 ①-1 人権ホームルーム 5回 ①-2 人権意識高揚 57.8%→64.1% ②-1 10月実施 ②-2 10月実施満足度 91% ②-3 1) 人権交流事業 14名 2) 人権標語提出 100% ポスターは美術選択者のみ全員提出 3) 人権の日啓発活動 8回 ②-4 職員研修 2回 ②-5 ハンドブックの活用 5回 ③-1 教育相談職員研修 1回 ③-2 特別支援教育職員研修 3回 ④-1 全校生徒にアンケート 2回 ④-2 カウンセリング室開放 週1回 ④-3 教育相談・特別支援三者面談 30回 ⑤-1 特別な支援を必要とする生徒の就労体験・職場見学 のべ13名参加 ⑤-2 職場訪問(卒業生) 4社	評定 C B B B B	総合評価 B (所見) ・今年も「カウンセリング室の開放」や「人権の日の啓発活動」・「こころと体の健康調査」を継続して取り組むことにより、教育相談活動が充実したものとなるよう努めている。 ・カウンセリング室への相談は多かった。また、外部よりスクールカウンセラーを派遣してもらうことにより、生徒の状況が改善した。深刻な事柄は、管理職と相談し外部関係機関につなげ、解決を図ろうとしたがなかなか難しい事案もある。 ・教育相談教職員研修会を開き、全職員の生徒に対する共通理解を図ることにより、生徒一人ひとりに適切な支援や指導がなされる一助となっている。	・人権交流会における中学生との意見交換は普段できないことであり、意義ある会であると思うので回数を増やし、交流を深めていきたい。 ・「心と体の健康調査」で分かった悩みを抱えている生徒に対して、今後とも面談や専門家によるカウンセリング等により相談活動を継続していただきたい。 ・高校生の時期は先生に悩みを相談しようとする生徒は少なく、気持ちの弱い生徒は新しい環境に対応できていない場合もある。 ・学年が上がるにつれて「将来やってみたことがある」の数値が上がっていることが良いことである。	・カウンセリング室の利用者がまだまだ少ないので、積極的に利用できる雰囲気を作っていかなければならない。 ・人権ホームルーム活動に向け、各学年で十分指導案等の事前検討会を行っていかなければならない。 ・教職員の特別支援教育への理解度を高め、チェックシートの活用により気になる生徒の支援を早い段階から行う。また、外部関係機関との連携を積極的に行い、個別のケース会議を必要に応じて実施する。
		備考 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成					

平成26年度学校評価総括評価表

自己評価		評価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
5 進路指導の充実	(全体レベル) 1)望ましい勤労観・職業観の育成と自らの将来設計の構築を図る。 2)進路情報の的確な提供による進路指導の充実を徹底する。 3)進路先の確保並びに定着化のための指導体制の充実に努める。 (下位組織レベル) ①望ましい勤労観・職業観育成のためのガイダンス・進路相談等の充実。 ②生徒理解を深め個に応じたきめ細やかな進路指導の徹底。 ③個々の進路希望に応じた進路開拓の推進 ④進路指導の力量を高めるため、教職員研修を実施する。	評価指標 ①-1 外部講師招聘回数 3回 ①-2 校内・校外がイダンス実施 各3回 ①-3 オープンキャンパス参加率 100% ①-4 進路補習実施 夏休み 8日 9月7日間 10月以降随時 ①-5 企業見学・職場体験の実施 20事業所程度 ①-6 内定後のインターシップの実施 7事業所 ②-1 保護者への説明および情報提供 2回 担任の面談実施回数 各人2回以上 ②-2 1・2年進路LHRの実施 4回 ②-3 就職・進学資料の提供 5回程度 ②-4 特別支援を必要とする生徒の進路相談 随時 ③ 企業訪問の実施 年間 200事業所 ④ 学年ごとに職員研修会を実施 2回 活動計画 ①-1 ビジネスセミナー講座等において外部講師の活用を図る。 ①-2 分野別、職業体験型、就職・進学説明会を実施する。 ①-4 就職・進学に向けた5教科の補習を実施する。 ②-1 保護者対象の進路ガイダンスや面談等を実施する。 ②-2 「キャリアノート」を活用したLHR活動を実施する。 ②-4 支援が必要な生徒に対し、担当教員や外部組織と連携し進路指導を進める。 ③ 新規の企業訪問を実施するなど、積極的な進路開拓を行う。 ④ 学年会等を活用し、進路指導の研修を実施する。	評価指標の達成度 ①-1 外部講師招聘回数 4回 ①-2 校内・校外がイダンス 校内5回 ①-3 オープンキャンパス参加率 100% ①-4 進路補習 夏休み8日間 9月6日間 ①-5 企業見学・職場体験 22事業所40名 ①-6 内定後のインターシップ 4事業所 ②-1 保護者への情報提供、三者面談実施回数 1回 ②-2 1・2年進路LHR実施 4回 ②-3 就職・進学資料提供 5回 ②-4 進路相談 9名 ③ 企業訪問 169事業所 ④ 学年別職員研修会 1回 活動計画の実施状況 ①-1 PTA総会(5月) 我武者羅応援団 ・2・3学年会(7月) 藤原奈緒美先生 ・就職ガイダンス(8月) 外部講師3名 ・進路講話(2月) 腰塚勇人先生 ①-2 分野別進学相談20講座(PTA総会) ・就職ガイダンス(8月) ・体験型進路ガイダンス(10月) ・学年別進路講話(12月 2回) ①-4 就職試験、進学推薦入試に向け、過去問を中心に具体的個別指導を強化した。 ②-1 PTA総会において、進路ガイダンスや保護者面談を実施した。 ②-2 キャリアノートを活用し、就職に必要な自己PR、面接トレーニング等を行った。 ②-4 あわサポートステーションやハローワーク等と連携し、就職支援を行った。 ③ 新規の企業訪問を実施した。 進路開拓4社 ④ 1,2学年は企業が求める人材育成や生徒の指導について研修を実施し、3学年は調査書作成、面接試験等の指導について職員研修を実施した。	評定 B 総合評価 B (所見) ・外部講師によるガイダンスの実施や講演に力を注いだ。特にPTA総会時の進路ガイダンスでは、保護者からの熱心な質問もあり、今後ももっと参加を促していきたい。 ・農業関係の企業求人を増やしていくよう企業訪問等を実施していかなければならない。 ・2学期以降は教員研修により1,2学年団の進路指導力の向上に努めた。今後も早くから生徒の意識を高めるとともに職員の見守り指導に努めていかなければならない。	・目標があれば学習への取り組みも積極的なものになると思われるので、できるだけ早い段階で進路への意識付けをする必要がある。 ・自分の将来を見通し、キャリアデザインをする力が、昨今は特に求められている。生徒に力をつけるためには教員の指導力を向上させなければならない。職員研修の内容や回数を検討してほしい。 ・県内求人が減少する中、進学希望が増えているようだ。専門高校において進路指導の学力保障にどう取り組むか、また、先を見越したキャリア教育も課題ではないか。 ・インターネット等で仕事を辞めた人の書き込みを見る生徒が増えているのではないか。卒業生など、近い年齢で頑張っている人の話を聞く機会があることが望ましい。卒業生の講演会を計画してはどうか。生徒にさまざまな職種があることを理解してほしい。 ・自分の適性に合った仕事を選べているか、疑問点が残る。	・食ビジネス科ともしっかりと関連づけられる就職先を開拓していかなければならない。 ・将来何をしたいのか、何ができるのか早い段階で理解させることで、幅広い進路選択を考慮することができる。 ・職業適性検査等を利用して、生徒と保護者に個々に応じた就職支援をしていく。 ・特別な支援を要する生徒の自己評価と客観的評価の差を少なくし、就職に向けた面談を積極的に行うことにより現実的な進路に導いていく。 ・企業見学の機会をもっと増やし、進路決定に向け、早い段階から十分話し合いをしていかなければならない。
		備考 評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成				

平成26年度学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価
6 活力ある特別活動の推進	(全体レベル) 1)生徒会活動・ホームルーム活動・学校活性化を図る。 2)1年生の部活動全員加入による部活動の活性化を図る。 3)地域の環境整備に努める。 (下位組織レベル) ①生徒会活動、ホームルーム活動の活性化 ①学校行事の活性化 ②部活動の活性化と学校リーダーの育成 ②農業クラブ活動の活性化 ③自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動の推進	①-1 生徒会活動に対する満足度 70% ①-2 あいさつ運動実施 10回以上 ①-3 ホームルーム活動の充実度 70% ①-4 各種委員会の充実度 70% ①-5 学校祭の満足度 75% ②-1 部活動加入率 1年100%, 2・3年70% ②-2 各部主将・部長会 年3回以上 ②-3 各科での取り組みと目標 (商業) 情報処理競技会・電卓競技会・ワープロ競技会・簿記コンクール・意見体験発表大会・商業研究発表・簿記新人大会 3位以内 (農業) 農業クラブ県予選会において最優秀賞受賞 2部門以上 押し花アート、フラワーアレンジメント等のコンクール出展 全国入賞: 1作品以上 県内入賞: 5作品以上	①-1 生徒会活動に対する満足度 (アンケート) 84% ①-2 あいさつ運動 10回 ①-3 充実度(アンケート) 65.2% ①-4 充実度(アンケート) 65.2% ①-5 満足度(アンケート) 80.3% ②-1 入部率 68.1% ②-2 各部主将、部長会 2回 ②-3 (商業) 情報処理競技会 団体3位 個人全国大会出場 簿記コンクール 個人全国大会出場 パソコン選手権 個人中四国大会出場 (農業) 意見発表(環境) 最優秀四国大会出場 プロジェクト発表(文化・生活) 最優秀四国大会出場 押し花アート 最優秀1, 入賞5作品	B	B
		活動計画 ①-1 生徒が自発的に活動し、学校生活の充実や改善について指導する。 ①-2 校門であいさつ運動を毎月実施する。 ①-3 人権・道徳教育をはじめ、ホームルーム活動の充実を図っていく。 ①-4 各代表生徒を中心に鴨島駅周辺・通学路の清掃活動等を生徒が主体となった活動を実施する。各環境委員を中心に地域の方と連携し、江川周辺の環境整備活動を実践する。 ①-5 生徒会を中心に企画立案した学校祭を開催する。 ②-1 部員を積極的に勧誘し活性化を図り、女子運動部の入部率を向上させる。部活動紹介や勧誘方法を工夫する。 ②-2 各部主将・部長を中心にルール・マナーの向上を指導させる。 ②-3 各部による活発な競技活動の展開を目指す。プロジェクト発表及び意見発表について、専任の教員が担当する。各顧問等の指導によりアグリクラブでの質の高い作品作りを展開する。	活動計画の実施状況 ①-1 朝の挨拶運動、球技大会、各種大会壮行会等を生徒会が中心となり実行できた。 ①-2 4月4回、5月～12月各1回 ①-3 進路、人権、防災等の内容で15回実施した。 ①-4 校門前でのあいさつ運動は毎月実施しているが、地域等でのボランティア活動等は生徒会として実施できていない。 ①-5 充実度80.3%であるが、生徒がもっと自主的にできるよう指導していかなければならない。 ②-1 4月に部活動紹介を実施し、その後も各顧問が積極的に声かけを行い、勧誘していった。 ②-2 年度初め、総体前の2回校外での生活について指導した。 ②-3 各部による活発な競技活動の展開を目指したが結果は思うようになかった。また、農ク意見発表、プロジェクト発表はともに最優秀賞を取ることができ、四国大会に出場することができた。押し花アートは放美展、県手工芸展に出品した。	C	(所見) ・生徒会の人数も増えてきており、様々な学校行事において活躍している。 ・部活動が昨年度より活発になってきているが、魅力ある部活動となるためにさらなる活性化が必要である。 ・商業、農業の各種大会に向けた各部等における指導を強化していかなければならない。

【備考】評価における「評定」の基準】 A: 100%達成 B: 80%以上達成 C: 80%未満～70%以上達成 D: 70%未満～60%以上達成 E: 60%未満達成

平成26年度学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価		学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価				
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
7 防災・環境教育の推進	(全体レベル) 1) 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 2) 新学校版環境ISO認定校として実践を推進する。 3) 食の安全・安心の観点からの教育を推進する。 (下位組織レベル) ①安全教育の充実 ①効果的な防災教育の計画・実践 ①有効適切な防災避難訓練の企画と展開 ①適切な保健管理 ①自己の健康管理能力の育成 ①適切な健康相談活動 ②節電・節水・ゴミの分別の徹底 ②校内の美化 ②正しい農薬散布の徹底と事故防止 ③食育の実施	①-1 防災に関する情報提供 月1回 ①-2 避難訓練 年2回実施 ①-3 保健だよりの発行 10回 ①-4 各種講演会の実施 年3回 ①-5 健診結果を通知 随時 ①-6 心身の健康に関する保健調査 年2回 ②-1 電気・水道の使用量が、前年度を下回る。 ②-2 毎日の清掃に取り組んでいる。 80%以上 ②-3 学校はゴミの落ちていない整った環境が保たれている。 80%以上 ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 前年度比50%削減 ③-1 給食センターへの農産物納品 3回 ③-2 食育通信の発行 2回 ③-3 食育関連講習会の実施 3回以上	①-1 防災に関する情報提供 月1回 ①-2 避難訓練 2回 ①-3 保健だよりの発行 10回 ①-4 各種講演会の実施 4回 ①-5 健診結果の通知 5~7月通知 ①-6 保健調査実施 2回 ②-1 電気の使用量 前年約10%下回る 水道の使用量 前年約25%上回る ②-2 アンケート調査 生徒 81.1→78.5% 職員 89.2% ②-3 アンケート調査 生徒 70.7→69.4% 職員 88.2% ②-4 毒劇物・農薬使用の軽減 前年度比30%削減 ③-1 給食センターへの農産物納品 1回 ③-2 食育通信の発行 2回 ③-3 食育関連講習会の実施 3回	B	B	・防災といえば火災や地震対策に偏りがちなイメージがある。しかし、最近の豪雨災害による甚大な被害を見ると、台風への対策も大切であると考えさせられる。登校している間の防災にとどまらず、どこにいても適切な行動で自分や周りの人の安全を守るようにとの視点で、防災教育をする必要がある。 ・電気の使用量が前年度より10%も節約されていることがすばらしい。ノウハウを公開することはできないか。 ・先生と一緒に清掃に取り組まないと、真面目に取り組めない生徒もいる。廊下を見れば、その学校の様子が分かる。清掃は限界がなく合格点が分かりづらい。	・清掃することによって、環境が整っていることを半年前の写真と比較するなど可視化する。そのことによって生徒のモチベーションが上がる。 ・防災に関する職員研修を実施するなど職員の意識を高めていく。 ・企業もきちんと清掃ができる人を求めていることを理解させる。 ・水道の漏水箇所を早急に点検、修繕する。
		活動計画 ①-1 防災計画を周知徹底すると共に、防災情報を提供する。 ①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所・危険箇所の確認をする。 ①-3 保健だよりを発行する。 ①-4 性教育講演会・心肺蘇生法講習会・熱中症対策講習会を実施する。 ①-5 健診を受診させ結果通知を3週間以内に発送する。 ①-6 保健調査を実施し心身の健康問題を把握する。 ②-1 水道量・電気量の月別の使用量をグラフ化して掲示し、節電・節水の呼び掛けを行う。毎日HR日誌にエコチェックを記入してもらい、必要に応じて生活の見直しを促す。 ②-2 年2回、生徒・職員にアンケート調査を行う。 ②-3 クリーンディの実施と環境美化委員会による清掃活動を行い、状況等についてアンケート調査を行う。 ②-4 適正な農薬散布を徹底する。 ③-1 地産地消並びに食の安全・安心の観点を踏まえた農産物の提供を行う。 ③-2 食育通信を発行し、生徒・保護者へは文書とホームページ上で食育の啓発を行う。 ③-3 食育講演会やPTA研修活動・家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し食事の重要性を呼びかける。	活動計画の実施状況 ①-1 防災計画を作成し周知徹底すると共に、月に一度防災情報を提供した。 ①-2 6月・10月に防災訓練を実施した。また、土成農場でも地震を想定した訓練を行った。 ①-3 内容は健康診断、食中毒、熱中症、歯周病等時期に応じた内容で発行した。 ①-4 心肺蘇生法講習会、熱中症対策講習会、性教育講演会・がん対策講演会を実施した。 ①-5 各健診ごと3週間以内に保護者宛に通知した。 ①-6 就寝・起床時間、朝食、友人関係等の調査を行い、心身の健康課題把握に努めた。 ②-1 水道量・電気量の月別の使用量を掲示した。毎日HR日誌にエコチェックを記入し、生活の見直しを行ったが、水道使用量が前年を上回った。 ②-2 清掃活動等について生徒(2回)・職員(1回)にアンケート調査を行った。 ②-3 クリーンディを月に1度実施した。また環境美化委員会(各学年ごと)に清掃活動や清掃点検を行った。 ②-4 毒劇物については果樹と養蜂のみで使用している。 ③-1 給食センターとの農産物提供品があわなかったため、農産物納品が1回になった。 ③-2 食育通信を5回発行し、食育の啓発を行った。 ③-3 夏休みに家庭クラブ・PTA合同の料理講習会を実施し、野菜摂取についての講義と調理実習を行った。	B	B		

【備考】評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成